令和元年年5月22日	
資　料　提　供	
担当課	林業振興課
担当者	佐野、松村
電話（直通）	073-441-2991

第32回特用林産功労者表彰で県内から２名、１団体が表彰されます！！

令和元年５月３０日（木）東京都内で開催されます「日本特用林産振興会総会」において、有田川町の上野保二（うえのやすじ）氏、古座川町の宮野佐代次（みやのさよじ）氏が特用林産功労賞を、紀美野町のりら創造芸術高等学校が特用林産功労者特別賞を受賞されます。

なお下記日程で表彰式が行われますが都合により欠席されます上野氏、宮野氏には後日、関係町役場から伝達されます。

記

○日本特用林産振興会総会（表彰式）

１．日　時　　令和元年５月３０日（木）　１４：３０～（表彰式は１時間程度）

２．場　所　　KKRホテル東京　１１階　朱鷺の間　（東京都千代田区大手町１丁目4-1）

３．受賞者　　【特用林産功労賞】

　　上野保二　（有田川町）　作目：ブドウハゼ

　　宮野佐代次（古座川町）　作目：サカキ

【特別賞】

　　りら創造芸術高等学校（紀美野町）　「ブドウハゼの原木」の調査

（功績の内容は別紙）

※表彰式には、りら創造芸術高等学校（教頭、生徒２名）が出席します。上野氏、宮野氏は欠席です。

※日本特用林産振興会
特用林産関連産業の振興を図り、農山村地域の発展に寄与するために昭和59年10月に設立されました。都道府県を単位とした特用林産振興会（正会員）、特用林産関連中央団体（特別会員）及び賛助会員からなっています。会長　小渕優子　http://nittokusin.jp/wp/

※特用林産功労者表彰

多年、きのこ類、木質系燃料、特用樹などの栽培・加工・経営などの分野で特用林産の振興のため献身的な活動を続け、その功績が特に顕著な者を表彰することによって、その優れた努力に報いることにより、一層の特用林産の振興を図ることを目的としています。

今年度は全国で２３名が表彰されます。和歌山県内では過去３２名が受賞しています。

別 紙

受賞者の功績概要

上野(うえの)　保二(やすじ)（88 歳）　和歌山県有田郡有田川町

ブドウハゼ

上野氏は和歌山県中部に位置する有田川町において、昭和 21 年から家業であるブドウハゼ栽培に従事している。氏は特に難しいとされる接ぎ木技術に卓越し、台木を断幹せずに穂木を接ぐ伝統的な「腹接ぎ」技術を得意とし、地域において技術指導などに尽力してきた。昭和 30 年代以降、国内における木蝋の生産が激減する中、氏は情熱と使命感を持ってブドウハゼ生産を守り続けており、現状も県内生産量の約半分を担っている。とりわけ、近年の欧州におけるジャパンワックス需要の増加などを受け、和歌山県内でも産地再興の動きがある中、接ぎ木技術の保持者として、関係者による研修会で講師として活躍するなど、後継者の育成に大きく寄与している。

宮野(みやの)　佐代次(さよじ)（87 歳）　和歌山県東牟婁郡古座川町

サカキ

宮野氏は和歌山県南部に位置する古座川町において、昭和 59 年からサカキ栽培に従事している。氏は約 20 年前から、自生木の中から形質に優れた品種を選抜し、挿し木による増殖を行いながら、品質の高いサカキの安定生産に取り組んできた。氏が栽培するサカキは、地元みくまの農業協同組合の特用林産物の主力商品であり、通常品種と比べ特に形質に優れていることから、市場関係者からも高い評価を受けている。とりわけ、これまでの研究成果の積み重ねにより得られた、節間が短く葉の厚みや光沢に優れた品種について、平成 30 年 4 月に「古座川宮野 3 号」として品種登録申請が行われたところであり、今後、同地域のサカキのブランド化に寄与することが期待されている。

りら創造芸術高等学校　和歌山県海草郡紀美野町

「ブドウハゼ原木」の調査（特用林産功労者特別賞）

「ブドウハゼの原木」は、過去には和歌山県の天然記念物に指定されていたが、その後枯死したとされ、登録から抹消されていた。りら高校では、2017 年に授業の「地域デザイン」の一環として地域住民への聞き取り調査をしたところ、枯死したとされる原木について、「存在を忘れられただけで、今も竹やぶの中に残っている」という話を聞き、同校生徒らが地域の山林を調査、それと思われるハゼの木を確認した。その後、文献調査や県に依頼した樹齢調査、和歌山県立向陽高校に依頼したＤＮＡ調査の結果などから、原木である可能性が高く、特用林産に係る地域資源の再発見につながる大きな成果であると高く評価されている。